

飯島堰近くから遠く大山を望む

BEST VIEW

金目川は平塚西部の土屋、金目、金田、旭、岡崎の一部の水田地域を潤します。金田及び旭地区の取水をする飯島堰近くからのベストビュー。最も下流に位置する取水堰のため、6月の田植え期にはここで全部取水され、いったん下流の流れが殆どなくなります。県下最大の水田地域を支える金目川の象徴です。 文：原 博雄



2023.5.16 撮影

鶺鴒

セキレイは主に水辺の近くに生息する小鳥で、金目川水系では、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイの3種を観察できます。長い尾羽を上下に振り、ちょこまかと動き餌を探す姿は何ともユーモアがあります。

ハクセキレイは、今は何処にでもいる鳥ですが、100年前は一部の地域にしか生息していなかったそうです。環境への順応性が高く、舗装された道路や人工物も、自然の石や岩と同じに見えているのでしょう。人を恐れない性格は住宅地や街中への進出を促したようです。

セグロセキレイはハクセキレイに似た鳥ですが、日本でしか見ることができない貴重な固有種の一つです。ハクセキレイと比べると、環境への順応力が低いようで、個々の争いでは勝っても全体の勢力争いでは劣勢にたたされています。主に川辺や農地で見かけます。

キセキレイは名前の通り下面が黄色くスマートな美しい鳥です。繁殖期の雄は黄色の体と黒色の頭のコントラストが際立ちます。清流を好み、綺麗な川がよく似合います。冬季には川辺の農地や住宅地に飛んで来ることもあります。 文と写真：近藤博史



ハクセキレイ

セグロセキレイ

キセキレイ

表紙 ミズガキ検定の答え

第一問 はい。きれいなところにしかすめない種類(カワゲラなど)や汚れた川でもすめる種類(ユスリカなど)は指標生物と呼ばれ、それを調べることで川の水質がわかるよ。

第二問 はい。渋沢丘陵ができる前は中村川や葛川のルートで南にまっすぐ流れ相模湾に注いでいたんだ。

第三問 「御所様」は徳川家康のこと。慶長元年(1596)家康の命により代官頭伊奈忠次が工事を行い、「中原御殿」造営と同じ時期、南金目で度々起こる洪水を防ぐため大規模な堤防が築かれたよ。

里川の自然と文化

花水川河口の石碑



花水川の右岸の河口、134号線の横断歩道を海岸へ渡ってすぐに不思議な石碑があります。設置は1935年(昭和10年)「平塚市花水河口」、「縣下名勝史蹟四十五佳撰當選記念」とあります。

これは神奈川新聞社の前身横浜貿易新報社が、同社の創立45周年を記念して行った事業で、読者投票によって神奈川県下の名勝・史蹟を選定したそうです。45周年だから、「四十五佳選」ということです。投票用紙は、新聞の紙面に刷り込まれたものを使用しました。当時は、新聞社による各種人気投票が盛んで、組織票も多く、この企画でも最終的には450万～500万票になったと言われています。花水河口は第20位で、平塚市内には第38位に金目観音も選ばれています。 文と写真：山口和子

湘南里川づくりみんなの会会報「湘南里川だより」
第4号

発行日 2023年 8月1日

発行 湘南里川づくりみんなの会

編集 会報編集委員会 担当 手塚真理

事務局 〒254-0073 平塚市西八幡 1-3-1

神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課

電話 0463(22)2711

ホームページ: [湘南里川づくり](#) で検索！

会員
募集中！

金目川水系で子どもたちが安心して学び遊べる川づくり

湘南里川づくりみんなの会 会報



湘南 里川だより

2023年8月
第4号

2023年5月14日(日) 平塚市立松原公民館にて

3年ぶりに里川フォーラムを開催しました！

湘南里川づくりみんなの会会長 藤野裕弘

「湘南里川づくりフォーラム」は、2003年2月から毎年開催されていた「金目川水系流域フォーラム」を2010年に引き継ぐ形で始まりました。しかしながら、2020年2月2日に開催した18回目となるフォーラム以降、コロナ禍で中止となっていました。今回、ようやくコロナ禍がおさまる気配を見せ、3年ぶりに開催することになりました。とはいえ、ウィズコロナを踏まえる必要も有り、総会と同時開催とし、従来に比べて小規模な内容での開催となりました。慣らし運



転といったところでしょうか。

ゲストスピーカーを招へいせず、会員が話題提供者となり、金目川水系流域ネットワークの佐藤様からは「野鳥出前授業を中心に」、上田幹事からは「川遊びは里川づくり ～2022年実施報告」、手塚幹事からは「流域懇談会」について報告して頂き、意見交換を行いました。

コロナ禍で、里川所属の各団体が活動継続に苦労されてきた状況も垣間見え、参考になる内容でした。里川づくりの今後に関しては、「川遊び」や「流域懇談会」の推進など、新たな活動展開に向けた提案もあり、特に「流域懇談会」に関しては、その内容をどうするのか、準備をどのように進めていくのかなどに関して、色々な意見が提示されました。その中で、河川整備について、生物多様性の保持への配慮不足との指摘が複数有り、昨今の集中豪雨を踏まえた治山治水事業とどの様に両立させていくべきかといった議論があり、行政や市民が一体となって取り組むべき課題との認識に至りました。

結論としては、単なる行政批判ではなく、河川治水政策に関わる情報共有や市民からの政策協力提案など、行政と市民が協働して、里川づくりを進める方向に持って行けるような懇談会にすべきであるということになりました。後日行われた幹事会で懇談会の進め方が検討され、「流域懇談会」の開催に向けた第1回目の打合せを7月24日(月)に行うことになりました。



金目川水系流域ネットワーク 佐藤氏



個人会員 上田氏

できるかな？

ミズガキ検定に挑戦！ 第四回

第一問 すんでいる昆虫で水の汚れ具合が分かるの？

第二問 約4万～5万年前金目川は今の葛川や中村川のルートを流れていた？

第三問 金目川の「御所様堤」の「御所様」とは？ こたえは巻末をみてね

イラスト：阿木二郎氏

(注)「ミズガキ」とは、淡水魚類研究家・魚道設計者の君塚芳輝氏が命名し、江戸川大学恵小百合名誉教授が提唱する、少年のように地域の水にまつわる様々な疑問を持ち、その解答を模索し続けることで地域の社会智(地域の価値観や文化的遺産)を育むことが期待される人のこと。恵教授による2020年2月2日湘南里川フォーラム2020の基調講演を契機に出題しています。

個人会員の活動 見守りウォーキングから子どもたちが安心して学び遊べる川づくり



2012年10月29日に第1回目がスタート、最終回で延べ67回、継続10年となりました。金目川水系を里川として将来に向けて大切にに残して行きたいと「湘南里川見守り隊」に応募した個人会員の活動として、とにかく川をすべて見て歩こうと始めました。

最初は河口から上流に遡り、次は上流から下流へ、右岸を歩いたら次は左岸、合流してくる小さな支流もめぐりました。また保全活動をしているグループをその場所に訪ねることもしました。その中から14コースを選別して「金目川水系の散歩道」というウォーキングガイドを作成、活動実績の一つとしました。そしてそのガイドで取り上げ

2012年10月29日 第一回金目川ウォーキング た14コースを、会員以外の希望者を募り歩きました。

博物館の学芸員並みの豊富な知識を持った草木や花に詳しい人、鳥を知っている人、金目川の魚を調べている人、川の防災を考えている人、得意分野を持つ仲間から多くの事を教えられ支えられました。

湘南里川見守りウォーキングは終了としますが、個人会員の里川づくりの活動は、子供たちの「遊べる川づくり」の活動に継承されます。幼いころに慣れ親しみ遊んだ川こそがその人にとっての心の中の「里川」です。金目川を「里川」として残して行く活動はこれからも続きます。

湘南里川見守りウォーキング幹事 山口俊彦



2016年1月14日 丹沢橋にて



毎回配られた
ウォーキング資料



ウォーキングガイド「金目川の散歩道」



2017年11月9日
大山川。歴史や文化に触れました

担当幹事の
山口さん
お疲れさまでした！



生き物
見つけも
楽しい



2018年4月12日
葛葉川では地層について学びました



2019年11月24日
花水川。クコの実食べる？



2021年12月26日
座禅川源流部の駒ヶ滝

里川づくりこれからの取り組み 川遊びができる金目川水系をつくろう

“里川づくり”、これはどのような川をつくることなのでしょうか。2018年、湘南里川づくりみんなの会は“子どもが安心して学び遊べる川づくり”が里川づくりの具体的なイメージであるとしてこれをスローガンと決めました。



これを受けて、2019年から2022年の間に秦野市葛葉川において川遊びイベントが試行され、その結果が2023年5月に開催された里川フォーラム 2023 に報告されました。その要旨は以下の通りですが、子どもが遊べる川は里川の具体的な姿であることが確認されました。

《川遊びイベントの参加者・スタッフ、地域の人たちの感想より》

1. 子ども・保護者の感想： 児童9人(幼稚園年少～小学5年生)の内8人が楽しかったと回答。保護者によれば、子どもが川遊びだけでなく、川やその環境、生き物、植物、自然に関心を持つようになった、子どもに自然の中で体験させたかったことが叶った。
2. 開催団体の感想： ここの川はきれい。親も自分たちにもできないこのような体験の場を作れたかった。今後も参加者2倍で実施予定である。
3. 地域・流域の人たち： 川遊びを支援する意識を持つようになり、ゴミを清掃し、水はきれいで、水中に割れ物などの危険物がなく、生き物が生息し、優れた河川環境が保たれた。

この結果から、金目川に遊べる流域をつくるのが金目川を里川にすることにつながるわけですが、今後は、秦野市だけでなく、伊勢原市、平塚市でも試行を重ねて知見を増やし、遊べる川づくりを展開していきたいと考えています。そのためには、参加者の募集については、幼児施設(幼稚園や保育園)や学校などとの連携が必要です。また、公民館や自治会の協力が望まれます。市行政の理解と支援が不可欠です。

試行から見てきた河川の課題もあります。例えば、道路から川の流れへのアクセスルートがありません。子どもは堤防法面を歩いて降りるため、転げ落ちる危険があります。また、堰堤が生き物の移動を遮っていますので棲息環境も考慮されていません。生き物が棲息する川で遊べるように考慮した河川工事が必要です。

まだ始まったばかりにすぎませんが、生き物が棲息する川で子どもが川遊びを楽しんでいる、そんな景色が何世代にもわたってつながっていく金目川をつくろうではありませんか。文：上田秀一

湘南里川見守り隊紹介

団体会員

地球っ子ひろば

代表 齋藤 美代子

エコかるたに挑戦！▶

神奈川県環境科学センター主催の「2001年環境学習リーダー養成講座」を受講した受講生が、多くの学んだことを生かしたいと、「地球っ子ひろば」を2002年6月に立ち上げました。小学生とその親を中心に環境の大切さを「楽しく」伝え、遊び感覚を大切に教室の中から環境や自然の大切さを感じてもらえればと思っています。

今年度の地球っ子ひろばの活動を紹介します。定例教室を年8回開催予定、依頼教室は大野中学校から依頼があり9月に予定しています。他の行事としましては、4月に開催された第43回渋田川桜まつり出展しました(活動展示、川の生き物さかなつり)。以前は、事前に川に入り採った魚など展示し“生き物水族館”をしていましたが、今年度は河川工事で川に入れませんでした。次年度の桜まつりは川から海へと流れるプラスチック問題をと考えています。また、7月22日の平塚環境フェア出展では、アイスの棒で竹とんぼ・牛乳パックなど厚紙でブーメランを予定しています。子ども達がもうすぐ迎える夏休み。お出かけ先の川で水調べが出来るキットを希望者に渡す予定です！！

里山遊び▶



賛助会員一覧

横浜ゴム株式会社 平塚製造所
株式会社カブキ
経営戦略研究所株式会社
株式会社ライフアカデミア
株式会社 Crepas
株式会社スマイルゴルフ
株式会社 WACARU NET
株式会社正モパイル
グローバルゴルフネット株式会社
株式会社インテグラルベース
士業 JOB 運営事務局
株式会社リクエストエージェンツ

2023年7月現在

株式会社キューブコンサルティング
株式会社ビズヒッツ
株式会社アルビノ
株式会社タンタカ
株式会社ナゴウェブ
株式会社 W-ENDLESS

里川つくり
の活動にご
支援ありが
とうござい
ます！

